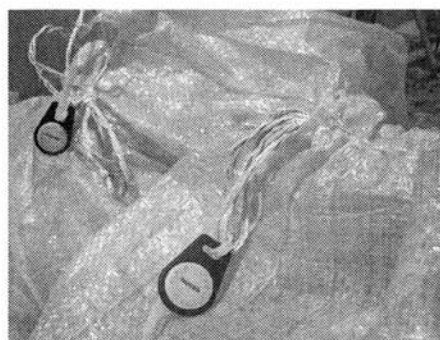


ICタグで廃棄物管理

住建現場向け発売

凸版印刷



凸版印刷は住宅施工現場で生じる廃棄物管理用ICタグを今月下旬に発売する。同製品を付け、廃棄物が不法に投棄されることなく、集荷センタ

ーや処理工場に届けられ、たかを追跡、再生や再利用のために廃棄物の数量を管理する。凸版と積水ハウス、日本総合研究所（東京都千代田区）3社

による実証実験にすでに10万個が採用されている。積水ハウスが09年度以降、本格的に利用する計画を打ち出したのを機に、

他の住宅メーカーにも売り込む。新製品は09年度に100万個の販売を目指す。価格は10万個製造時点ですべて150円から。洗濯を繰り返す制服管理用のコイン型ICタグをPPS（ポリフェニレンサルファイド）樹脂で補強した。アンテナを設計し直し、読み取り距離は5センチを確保。手袋をはめたまま作業できるように、側面と背面に溝を付けたほか、雪中でも見やすい黒色にした。周波数帯は13・56メガヘルツ。

管理システムは、現場で出た木片やコンクリート片など廃棄物の袋ごと同製品を付け、廃棄物の種類と重量を書き込み、サーバーに送信。集荷センターや処理工場でタグとサーバーの情報を照合するもの。凸版は06年から積水ハウス、日本総合研究所と共同でICタグを使った廃棄物管理システムの実証実験を行ってきた。

主要な住宅メーカーは、自社の管理体制の下で都道府県をまたがって廃棄物を回収、処理できる廃棄物処理法上の広域認定を取得している。新製品を使ったシステムで、より効率的な管理体制を築き、広域認定を活用した廃棄物の減量や再生に生かせる。廃棄物の重量を管理するため、資材の適切な投入量を把握でき、施工費や処理費の削減、資材の原価改善などにもつながる。